

駒ヶ根民報

No.1399
2018.04.15
日本共産党
駒ヶ根市委員会
Tel 83-2969

市議会全員協議会

地域交流センター(赤穂公民館)等施設整備(素案)

基本設計の素案が提案

議員全員協議会において、赤穂公民館とつくし園を同じ建屋に併設し建設される地域交流センターの基本設計の素案が、市教より提案されました。

全体の配置は、西側の1階と2階部分を公民館に、入口は西側、東側の1階部分をつくし園、入口は北側とします。

赤穂公民館部分

1階はエントランスホールからホワイエに軽食、自習コーナーも設けられ、事務室、プレイルーム、創作室、小会議室が2室、創庫、トイレ等と、スナージを配した300席を収容できる小ホールが設けられます。

2階部分は、階段を上がりホール、学習室を4室、和室、視聴覚室と付随した機械室や創庫、トイレ等が配置される計画。

つくし園部分

東側に配した1階には、玄関を入りホール、事務室、相談室が3室、訓練室が6室、託児室、創庫、厨房、教材庫、トイレ2ヶ所、休憩更衣室等が設けられる計画です。南側には500㎡のテラスを含む園庭が配置されます。

駐車場出入口口

つくし園利用者は建物の北側に10台の駐車場と出入口口を挟んで5台の臨時駐車場を設けてあります。北側の出入りはつくし園利用者のみ利用とする計画。

公民館利用者は西側にある文化センター駐車場と北側市道を挟んで設けられている駐車場を利用することになります。



駅前広場整備計画見直し

駒ヶ根駅前広場整備は、当初の計画に対して費用が掛かりすぎている等の指摘もあり、見直し概要が提示されています。

当初、駅前シエルトに1億7000万円、1億1000万円に▲6000万円(概算削減)

主な変更点

- ① 駅舎出入口口を除く庇の幅を縮小
- ② 膜軒トールバーをアルミパネルに変更
- 山岳観光都市として基本コンセプトの木のイメージの演出に変更なし

大庇

駅舎出入口口の当初設計を活かした大屋根とし開放感を演出。柱は2本の片持ち構造から4本柱の構造に変更し安定感を図る。屋根材は白膜を使用することにより軒下を明るく空間に。化粧は柱を赤松(市産材)で仕上げ、軒下にルーバーを設置し意匠性を高める。

通路庇

事業費削減を図るため規模は縮小しつつも利便性は損なわないよう歩行者の導線や乗降場への乗り入れをカバー。柱は一本の片持ち構造。屋根材はアルミパネルを使用することによりすっきりとした印象と事業費、維持管理費の削減を図る。化粧は柱を赤松で仕上げ大庇との統一感を創出。

交番前の通路庇

車両の出入りを考慮し1メートル高くします。有効高3.5m

第7期介護保険料の値上げ内容

国の制度改正により、介護保険事業費に占める保険料の割合が22%→23%へとなる影響で、基準段階の月額保険料が110円引き上げられます。

国民健康保険

予算額28億8373万円、前年度比7億3572万円と20%超の大幅な減少会計となりました。一般会計からの繰入金、保険給付費の減少見込みなどにより5409万円減少。今年度、国保税の引き上げはありません。

かほく市との

友好都市提携

石川県かほく市との友好都市連携について
 協定締結開催日 平成30年5月21日～22日
 場所 石川県かほく市 かほく市役所
 内容 協定書署名、市旗交換など

両市は「災害時相互応援に関する協定」で培った相互の信頼と尊敬を礎として、これまでの友好関係をさらに深めるため、幅広い分野における交流を通じて、お互いに理解と連携を深め、両市の発展につなげてまいります。

第7期介護保険料 (2018年度～20年度) ▲はマイナス			
段階	合計所得	月額保険料	6期と差
1	非課税世帯 80万円以下	2520円	49円
2	非課税世帯 120万円以下	3920円	77円
3	非課税世帯 120万円超	4200円	82円
4	本人非課税 80万円以下	5040円	▲175円
5	本人非課税 80万円超 (基準)	5600円	110円
6	本人課税 120万円未満	6720円	132円
7	本人課税 200万円未満	7280円	143円
8	本人課税 300万円未満	8680円	▲103円
9	本人課税 400万円未満	9520円	187円
10	本人課税 600万円未満	10472円	41円
11	本人課税 800万円未満	11536円	8円
12	本人課税 200万円以上	12656円	29円

介護準備基金を投入するなどして引き上げを最小限に留める市の努力は評価できます。

しかし、国は、国の責任を地域に課し、市民に介護・ボランティアへの協力を求め、献身的に携わっている市民がいる中で、市民感情として引き上げは理解しにくいところです。